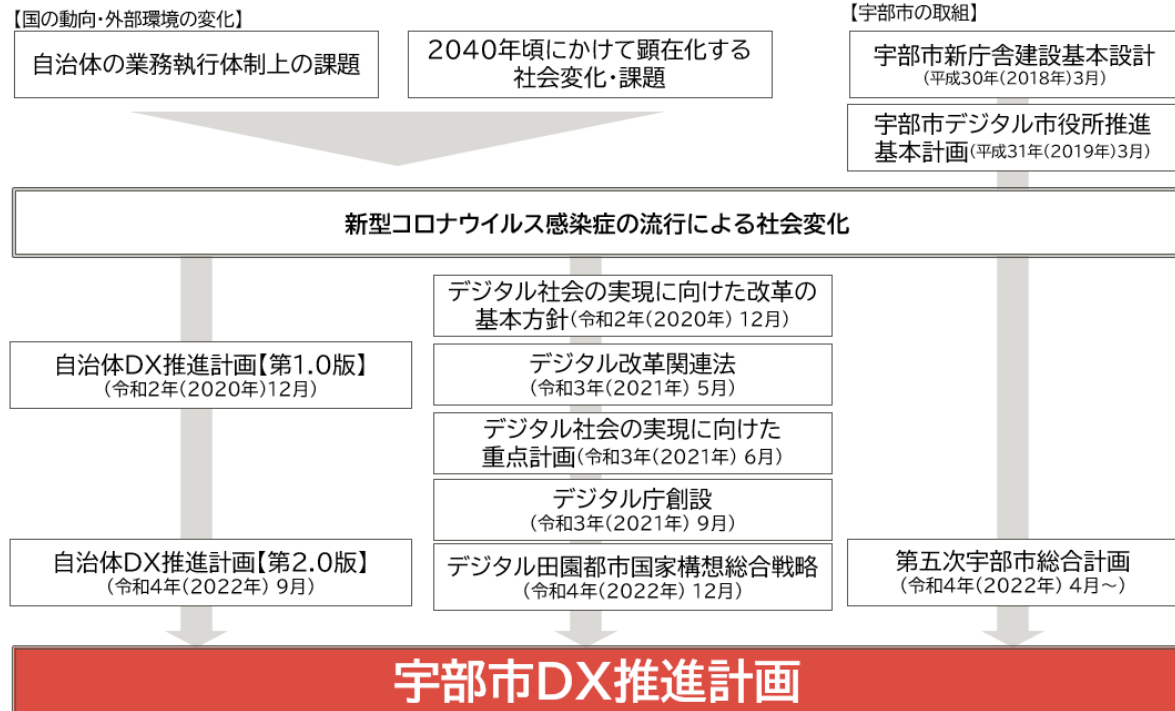


計画策定の目的

- 市民・事業者・市職員など、誰もが“便利さ”や“くらしやすさ”を実感できるような社会を、デジタルも使った変革(トランスフォーメーション)により実現するために策定します。

計画策定の背景・位置づけ



- 第五次宇部市総合計画の個別計画として、「宇部市デジタル市役所推進基本計画」(R1～R4)を継承し、「第五次宇部市総合計画 基本構想」(R4～R13)に掲げる将来都市像の実現に向けた取組をDXの視点で下支えするものとします。

計画期間

- 令和5年度から令和8年度までの4年間とします。なお具体的な取組内容については、総合計画や国・県の政策動向等を踏まえ、随時見直しを図ります。

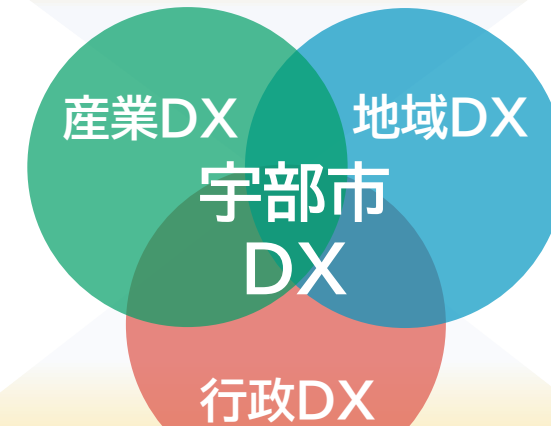
※本計画の実行性を担保するための具体的な行動計画(アクションプラン)を別途策定しています。

基本理念とその実現に必要な視点

【基本理念】

未来志向で地に足をつけた抜本の変革

～職員・組織が変わり、行政サービスが変わり、
地域・産業が変わる宇部市DX～



宇部市DXを担う市職員の働き方、意識、組織風土を変革することで持続可能な行政運営体制を構築します
これまで以上に、市民・事業者の視点に立った行政サービスの提供や産業・地域の変革を実現するため、未来志向で施策・事業を立案し、地に足をつけた(≒考え方をしっかり持ち、着実な)取組を進め、宇部市の持続可能な発展を目指します

【基本理念の実現に必要な視点】

理念の実現のため、以下の視点をもって施策・事業のPDCAサイクル(計画・実施・評価・見直し)を実践します。

職員・組織の変革のための視点(行政サービス、産業・地域の変革の前提)

- ✓ 前例を疑う
- ✓ 目的志向・ゴール志向
- ✓ 障壁となる制度は率先して取り除く

行政サービスの変革のための視点

- ✓ まずアナログの業務改革を徹底
- ✓ 次にデジタル技術をフル活用
- ✓ 今後、市民接点はデジタル化を原則

産業・地域の変革のための視点

- ✓ 技術起点ではなく、課題起点で施策・事業立案
- ✓ 事業者が自律的に課題解決に向けて取り組むよう支援
- ✓ 課題解決の手段を十分に検討し、最適な手法を選択
- ✓ 実証実験ありきでなく本格運用を見据える
- ✓ 補助金や交付金ありきでなく将来の財政負担も見据える

基本理念

未来志向で地に足をつけた抜本の変革
 職員・組織が変わり、行政サービスが変わり、
 地域・産業が変わる宇部市DX

基本方針

1 行政DXによる市民サービスの充実

- ◆ 市民が「市役所に行かなくてもよい」「市役所で待たなくてもよい」「市役所で書かなくてもよい」よう、オンライン手続やスマート窓口をさらに充実するとともに、提供する市民サービスに関する情報をタイムリーにわかりやすく発信します。

2 行政DXによる業務効率化・業務継続性強化

- ◆ 適正化や効率化が求められる業務について、BPRの手法を取り入れるなど、アナログやデジタルを問わず業務効率化を推進するとともに、柔軟な働き方を実現することで、行政としての業務継続性を強化します。

3 DX推進の基盤となる庁内環境整備

- ◆ 継続的なDX推進に必要な庁内環境について、組織体制、人材（職員）、情報セキュリティ対策の観点から整備を進めます。

4 産業DXによる産業力の強化

- ◆ 地元産業の経営基盤強化の取組を進め、地域産業の自発的な発展を目指します。

5 地域DXによる活力あふれる地域社会の実現

- ◆ デジタル技術を活用した地域におけるコミュニティ活動のさらなる活性化や、全ての市民がデジタル技術の恩恵を受けられる地域社会の構築を目指します。

取組の方向性

- (1) マイナンバーカードの普及促進
- (2) 行政手続のオンライン化の拡充
- (3) スマート窓口の拡充
- (4) 情報発信のデジタル化推進

- (1) BPRの取組推進
- (2) AI・RPAの利用拡大
- (3) デジタルワークスタイルの推進
- (4) 自治体情報システムの標準化・共通化
- (5) 内部統制の強化

- (1) ICT活用にかかるPDCAサイクルの構築
- (2) DX人材の確保・育成
- (3) セキュリティ対策の徹底
- (4) デジタル原則に基づく規制の点検・見直し
- (5) データ利活用の推進

- (1) 経営基盤の強化
- (2) デジタル技術の活用推進
- (3) 産業人材の育成

- (1) 地域社会のデジタル化
- (2) デジタルデバйд対策